

熊大通信

vol. 80
2021 Spring



特集 I
新学長就任！
小川学長に聞く

特集 II
困ったとき、悩んだとき
頼れる味方がいます！
熊本大学の学生支援



第9代校長 武藤虎太と仰光館の扁額

五高出身の校長 武藤虎太

昭和初期、習学寮に臨接して卒業生や寮生の家族、寮への訪問客のための宿泊室と寮生の娯楽室を設ける計画があり、1931(昭和6)年の陸軍特別大演習の際の天皇行幸を記念して建設されることになった。

翌年4月末に竣工し、前校長武藤虎太に館名を依頼、武藤は、後継の校長十時彌と協議のうえ「仰光館」と決め揮毫した。

武藤が二高、四高の校長を経て、母校の第9代校長として赴任したのは昭和6年1月10日のこと、病を得て退職した翌年3月31日までと任期は極めて短かったが、五高にとって意味深い存在である。

武藤は、1887(明治20)年の第五高等中学校(後の五高)開校時に第1期生として予科三級に入學し、1892(明治25)年7月第1回卒業生となった。開校紀念式の生徒総代や卒業生総代も務めている。1895(明治28)年帝国大学卒業と同時に五高の歴史学教授として赴任し、1907(明治40)年、二高教授として転出、後の経歴は前述のとおりであり、開校当時の数々の逸話を語り残している。

文 藤本秀子(五高記念館)

※「習学寮」は第五高等学校内に設けられた寄宿舎。
「仰光館」は現在の「くすのき会館」(黒髪北キャンパス)付近にあった。

※「二高」は第二高等学校(現宮城県仙台市)
「四高」は第四高等学校(現石川県金沢市)
それぞれ東北大、金沢大学の前身校のひとつである。

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。



熊大生、拓く。

数万点の古文書から歴史を紐とく

数万点にも及ぶ熊本藩の古文書群。そこにどんな記録があるのかを紐といっているのが熊本大学永青文庫研究センターだ。藩主細川家、筆頭家老松井家、それに各地の庄屋のもとに伝えられてきた膨大な歴史資料の目録の作成には、センターに所属する研究者だけでなく、文学部の学生も参加している。調査のたびに新発見が相次ぐ古文書の分析。次に何が見つかるのかわからない高揚感は、研究の最前線に立っているからこそその特権だ。

撮影：熊本大学学生広報スタッフ
文学部 溝口夢奈

CONTENTS

- 03 特集 I 新学長就任！
小川学長に聞く
- 11 研究室探訪 宇宙の「最初の星」は、いつどうやって生まれた？
大学院先端科学研究所 基礎科学部門 物理科学分野
高橋 廉太郎 准教授
- 13 特集 II 困ったとき、悩んだとき頼れる味方がいます！
熊本大学の学生支援
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 私たち熊本大学学生広報スタッフです
- 21 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙／【原画】松永拓己／大学院教育学研究科准教授
桜につつまれる熊大 -白川より望む-

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.80

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

〔発行〕国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

〔編集〕熊大通信編集委員会
大日方信春／委員長 大学院人文社会科学研究部（法学系）
安村 明／大学院人文社会科学研究部（文学系）
松永 拓己／大学院教育学研究科
松永詩乃美／大学院人文社会科学研究部（法学系）
一柳 錦平／大学院先端科学研究所（理学系）
尼崎 太樹／大学院先端科学研究所（工学系）
坂梨 京子／大学院生命科学研究所（保健学系）
首藤 刚／大学院生命科学研究所（薬学系）
井口 英樹／総務部総務課広報戦略室

〔制作〕株式会社 談

※記載の職名、学年等は取材時のものです。



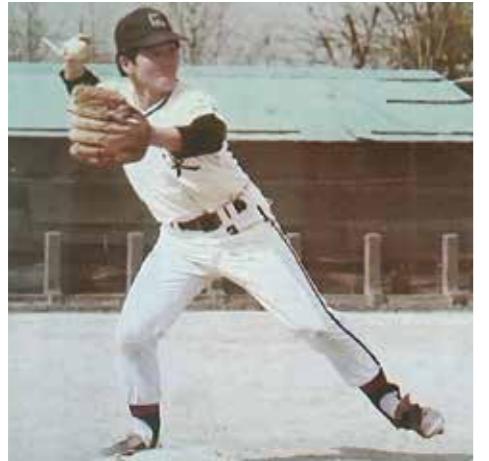
特集 I

新学長就任！ 小川学長に 聞く

2021年4月、熊本大学の第14代学長として、小川久雄氏が就任しました。熊本大学医学部卒業後、医師として、教員として、経営陣として熊本大学に従事した小川学長。その人となり、学生時代の思い出、これからの熊本大学について聞きました。

第14代 熊本大学長 小川 久雄 OGAWA Hisao

徳島県出身、徳島県立富岡西高等学校卒業後、医師を目指して熊本大学医学部へ。1978年熊本大学医学部卒業。1984年から31年に渡り、医員、助手、講師、助教授、教授として熊本大学に奉職した。2016年より国立循環器病研究センター理事長を務める。2021年4月第14代熊本大学学長に就任。



野球に、勉強に全力を尽くした学生時代。「当時の友人とは、練習の後よく食事に行ったり、飲みに行ったりしました。彼らとは今も関係が続いています」と小川学長



1970年代の医学部の様子（熊本大学文書館所蔵資料）

学生時代に熱中したのは野球です。小川学長は、野球部で「ケガをしても熱く取り組んだ」と語ります。

私は、熊本大学医学部を卒業後、1984年から31年に渡り、熊本大学で教育、研究、診療だけでなく、医学部や病院の運営に携わってきました。その後、2016年から国立循環器病研究センターの理事長となりました。

その間、外にいたからこそわかる、熊本大学の良さが見えてきたのではないかと思っています。また、国の機関にいたからこそそのつながりや知識、経験も活かせると思っています。

授業に、試験に 集中して勉強した6年間

私の学生時代は、1年と2年が教養、3年と4年で医学の基礎知識、5年と6年で臨床というカリキュラム。1、2年の頃は黒髪北キャンパスの教養棟（現在の全学教育棟）で学んでいました。厳しい先生もいたのですが、難しい先生の授業ほど集中して勉強し、「これに通つたらすごい」と言われる先生の試験にも通りましたよ。集中しすぎて、他の授業の試験を落としてしまい、「なんだ？」と友達に言われたこともありました。

part 1 大学時代の思い出

野球に熱中した大学時代。そのころの経験が今も活きる。

1978年に熊本大学医学部を卒業した小川学長。
熊本大学で過ごした学生時代が、今の自分につながっていると話します。
どんな学生時代を過ごしたのか。学生時代を振り返ります。

強みを活かし、 社会に開かれた大学へ

伝統ある熊本大学の良さを活かし新しい風を吹かせたい



た。試験の中には口頭試問（面接形式の試験）がよくあって、出題傾向を分析して通ったということも。おもしろい時代でしたね。

先生の中には、同じ徳島出身の先生もおられ、とてもかわいがつてもらいました。わからないことを教えてもらえるのがうれしくて、その授業についてよく勉強したのもいい思い出です。

離れたからわかる 「伝統ある」熊本大学の良さ

熊本大学の医学部に31年間勤めた後、

2015年に国立循環器病研究センターに赴任しました。そこで感じたのは「熊本大学には伝統がある」ということです。いろいろな専門機関や関連する先進研究の場に、熊本大学や五高の卒業生がたくさんおられました。「自分は旧制五高的出身だから、君は後輩だ」と言つてくれる人もいました。みんな、五高出

身、熊本大学出身であることに誇りをもち、愛着も強いです。熊本大学にいたときは「古いだけ」と思つたりもしましたが、長い伝統があるということは、その分の蓄積があり、歴史の重みがあるといつことなんだと思います。

そんな伝統や「歴史」に甘えることなく、新しいことを生み出す必要があると感じているのも確かです。これからは、またたく新しい部分にも目を向けて、切り開いていくことで、トップレベルの成果を発表し続ける大学にしたいと思っています。

もう一つは、黒髪北キャンパスの教養棟前にあつた「北地区食堂」です。今は「多言語文化総合教育棟」になつています。今は医学部の駐車場になつています。

今はどちらもなくなっていますが、そこの場所に行ぐと、当時を思い出します。

part 2 これからの 熊本大学

100年に一度の事態が起きている今だから、 熊本大学の良さを活かした、新時代の大学が目指せる

これからの熊本大学において小川学長が目指しているのは「開かれた大学」です。教育、研究、各分野において、どんな強みを活かし、重視しているのかについて聞きました。

社会に貢献できる 「開かれた大学」を目指す



熊本大学の強みの一つは世界的にも知られている研究者が多くいるという点だと感じています。医学部の研究についてはある程度知っていたのですが、そのほかにもKUMADA-Iマグネシウム合金や、永青文庫研究センターでの研究、薬学部の歴史など、素晴らしい研究成果や歴史的資産がたくさんあります。これらをどんどん伸ばして、活かして、発信していくかねはと思っています。

そのためには必要なのは「交流」です。地域、企業など社会に開かれた大学でなければいけません。国立循環器病研究センターでは、民間企業の人と一緒に研究を行うオープンイノベーションセンターを創設したのですが、企業の人と話していると、社会の中で、「どのように活

キャンパスミュージアムで 熊本大学をもつと知つて！

もう一つの強みは「歴史」。開かれた大学と「歴史」をつなぐ大きな取り組みとして、キャンパスミュージアム構想を掲げています。熊本大学には国指定の重要文化財が4つもあります。五高記念館は熊本地震以降、修復のため閉館中でしたが、2021年12月に修復完了予定です。これを機に周遊の仕組みも作って、高校生、一般の人にもっと熊本大学に来てもらいたいですね。キャンパスが多くの人にとって学びの場、憩いの場になればと思います。さらには講演会などをやって、大学の特徴や研究者のこと、研究内容も知つてもらえるといですね。



本荘南キャンパスにあつた医学部グラウンド(1996年頃)(熊本大学文書館所蔵資料)



教養棟前の北地区食堂。洋食メニューも充実していた(2011年)(熊本大学文書館所蔵資料)

熊本大学の歴代学長	
13代 原田 信志 (2015年)	12代 谷口 功 (2009年)
11代 崎元 達郎 (2002年)	10代 江口 吾朗 (1996年)
9代 森野 康彦 (1990年)	8代 松角 公一 (1986年)
7代 松山 正巳 (1980年)	6代 岳中 典男 (1974年)
5代 黒田 藤吉 (1970年)	4代 六反田 武 (1965年)
3代 柳本 典男 (1959年)	2代 本田 弘人 (1950年)
初代 鰐淵 健之 (1950年)	()内は就任年

熊本大学 理事、副学長(2021年度)

小川学長体制では、各分野を担当する理事や副学長を多く配置しています。
理事、副学長はそれぞれの担当について掌握しながら、
担当の枠を超えて、チーム体制で熊本大学を動かしていくこととしています。



理事・副学長
大学改革・評価担当
富澤 一仁



理事・副学長
研究・グローバル戦略担当
大谷 順



理事・副学長
教育・学生支援担当
宇佐川 肇



理事・副学長
人事・労務担当
八幡 英幸



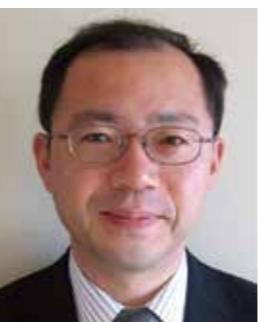
理事・事務局長
財務・施設担当
有松 正洋



副学長
戦略・病院経営担当
馬場 秀夫



副学長
戦略・地方創生・地域連携担当
甲斐 広文



副学長
戦略・産学連携担当
清水 聖幸



副学長
入試・高大連携担当
市川 聰夫



副学長
法務担当
伊藤 洋典



副学長
キャンパスミュージアム担当
小畑 弘己



副学長
男女共同参画担当
前田 ひとみ

コロナ禍がもたらした 新しい学びの形を活かす

新型コロナウイルス感染症の拡大は、

遠隔授業の増加など、大学の教育にも大



熊本地震の被害により、現在は修復工事中の五高記念館

きな変化をもたらしました。そんな中
「どうでも授業が受けられる」というメ
リットも出てきたのではないかと思いま
す。例えば、熊本にいながら、自分が学
びたい分野を得意とする他大学の先生

研究も重要なのですが、どんな分野で
も大事なのは「いい教育」と思えてい
ます。そのため、第一線で活躍してい
るいろいろな人をどんどん呼んできた
いとも思っています。一流の人のやり方
や考え方につれて触れることで、人は成長しま

もう一つ大事なのは英語力です。広い世
界に目を向けるためには必ず語学力が必
要になります。私は留学の機会がありま
せんでしたが、今ではいろいろな学会でつ
ながりができ、グローバルな関係もでき
ています。でも、留学していたら、もつとその
幅は広がつたろうと思います。海外と付
き合える人になれるよう、英語力をしつか
り身につけてください。

「いい教育」 なにより重視したい

自分の学生時代を振り返って思うの
ですが、専門科目の知識だけでなく教養
をしっかりと身につけることはとても
大事だと考えています。私は学生時代
に野球に没頭しました。運動してばかり
で、あまり本を読みませんでした。今、文
章を書いたり、挨拶をしたりするとき、
言葉の使い方や文章力、ボキャブラリー
などが足りないと思うことが多々あり
ます。この能力は、論文や研究以外の場
面でも必要とされるもので、学生時代
どれだけ本を読んだか、教養を身につけ
たかで決まります。ですので、たくさんの
本を読んでほしいです。

自分の学生時代を振り返って思うの
ですが、専門科目の知識だけでなく教養
をしっかりと身につけることはとても
大事だと考えています。私は学生時代
に野球に没頭しました。運動してばかり
で、あまり本を読みませんでした。今、文
章を書いたり、挨拶をしたりするとき、
言葉の使い方や文章力、ボキャブラリー
などが足りないと思うことが多々あり
ます。この能力は、論文や研究以外の場
面でも必要とされるもので、学生時代
どれだけ本を読んだか、教養を身につけ
たかで決まります。ですので、たくさんの
本を読んでほしいです。

学生時代に 教養と英語力を身につけよう

。学生の皆さんに、「いい教育」の中で
しっかりと学んでほしいですね。

研究室 探索 訪問

Laboratory Report

\ 先生 interview /

物理、数学、工学技術
すべてを動員し
宇宙を紐とく科学です

宇宙物理学や天文学と呼ばれる分野の研究を行っています。宇宙に関する様々なことを扱う空間の中で、特に私たちが取り組んでいるのが電波天文学。宇宙から飛んでくる電波を材料に、宇宙を探っています。例えば、宇宙が生まれたのは138億年前。太陽や地球は46億年前で、宇宙全体の歴史から見れば比較的最近です。では、太陽のような恒星が宇宙に初めて生まれたのはいつなのか。予測としては宇宙が始まって1億年目、137億年ほど前だと考えられていますが、本当にそののか、それはどんな星だったのかを明らかにしようとします。

星はいつ、どうやって生まれたのか。それには、「宇宙はどうやって始まったか」という問い合わせに匹敵するほど難しい問題です。しかし、そんな素朴な疑問ほど難しい。宇宙に山ほどある恒星の一つが太陽であり、その周りの惑星の一つである地球にいる私たち、が宇宙全体の歴史を紐とけるのがこの研究のおもしろさです。地球上で見つけた法則で宇宙を解き明かす、そこに物理学は不可欠で、背後には数学もあります。最新の学術技術を使って作られる望遠鏡も欠かせません。様々なものを総動員して宇宙を探る研究です。



高橋 慶太郎 准教授

大学院先端科学研究所 基礎科学部門 物理科学分野

高橋 慶太郎 准教授
TAKAHASHI Keitaro

宇宙の「最初の星」は、いつどうやって生まれた?
—宇宙から飛んでくる電波を材料に、
様々な謎に挑んでいます



学生が見た!

高橋研究室 3つの特徴

1 研究テーマ

宇宙再電離(EoR)、パルサー、磁場、宇宙生物という4つの研究グループに分かれ、宇宙はどう始まったのか、地球外に生命はあるのかなど、様々な宇宙科学に取り組んでいます。

2 研究手法

自主性を重んじてくれる先生です！

3 先生

院生以上の学生は、英語力を磨くためのゼミ、ランチタイムに論文や研究紹介をするランチセミナーなども実施。

Lab's Data

□ 卒論テーマ

- 重力マイクロレンズによる太陽系外惑星の観測可能性
- 楕円軌道を持つ超大質量ブラックホール連星からの重力波
- 銀河の3次元磁場構造
- 宇宙再電離21cmの前景放射除去

など

□ メンバー

- 准教授1名
- 研究員3名
- 大学院生9名
- 学部生3名

— 今後の目標は?

実際に望遠鏡を使って得られるデータの解析を本格的にやってみたい。大規模なデータを扱い、そこから宇宙を分析する研究に携わりたいです。

— なぜこの研究室に?

中性子星の物理現象と、中性子星を使って重力波を理解する研究を行っています。

宇宙は手に取って観察するほど身近ではありませんが、科学的に理解すること

はでき、それが面白いと思っています。

そして、「こうだ」と考えられていたことが実際には違うことを発見できるのも研

究の醍醐味。短いスパンで自分がそれを

見つけられるかは分かりませんが、科学

全体の中で、何かの発見に少しでもつな

がればいいのかなと思っています。

— 今はどんな毎日ですか?

学部生の間は、先輩の論文などを読み、太陽系外惑星をどう観測するのか、どう

いう工夫をすれば見つけられるのかをと

にくく勉強。大学院ではもっと主体的に、

知りたいことに対して何をすればいいの

か、自ら考える視点を持って取り組んで

いきたいと思います。難しいことばかり

ですが、太陽系以外に地球のような星を見つけていきたいというロマンある目標が、自分を励ましてくれています。

人工電波を計測する実験



オーストラリアでの共同研究



教育支援**対面とオンラインを活用し、新しい教育を目指しています！**

熊本大学では、どんな授業を履修するかを登録するのもオンラインで対応しています。講義は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、対面だけでなく、Web会議システムやオンライン学習システムを活用した遠隔授業を併用。それぞれの特徴を活かし、さまざまな工夫を凝らした新しい学びの形への転換を行っています。



先輩からアドバイス！



文学部
コミュニケーション
情報学科3年
清野 花連
SEINO Karen



薬学部
創薬・生命薬学科1年
佐藤 諒一
SATOH Ryoichi

遠隔授業のメリットは、周囲を気にせず集中して授業に臨めること。チャットで質問もできるので1対1の授業を受けている感覚でした。受講者をグループに分けて行うグループワークもあり、議論する場面でも相手の話を集中して聞く習慣ができたと思います。

チャットを利用すれば質問もできる！
いつも先生と1対1の気分で学べる

Moodleにアップされた遠隔授業の映像は復習に有効。テスト前に役立ちました。通学にあてる時間を活用して、検定に挑戦できたのもよかったです。授業選択でわからないことは教務にメールで相談しました。サークルに入つて同じ学部の先輩に聞くのも有効ですよ！

授業動画はテスト前に活用！
サークルの先輩からの情報が有効です

わからないときはヨコで相談！**履修登録のやり方がわからない**

所属学部の教務担当または
教育支援課教養教育担当へ

オンライン授業を受けるための準備について不安がある

総合情報統括センターヘルプデスクへ

通信環境・機材の支援が必要

教育支援課教務支援担当へ

教育支援課教養教育担当

電話 096-342-2718、2717(平日9~17時)
メール gak-kyoyo@jimu.kumamoto-u.ac.jp

総合情報統括センターヘルプデスク

電話 096-342-3949(平日9~17時)
メール help4u@cc.kumamoto-u.ac.jp

教育支援課教務支援担当

電話 096-342-2716、2719(平日9~17時)
メール gak-senmon@jimu.kumamoto-u.ac.jp

困ったとき、悩んだとき頼れる味方がいます！**熊本大学の
学生支援**

高校までとは異なる大学生活。
学びや暮らしなど、さまざまな場面で、
困ったり、悩んだりすることが出てくることもあります。
そんなとき、大学には気軽に相談でき、
一緒に解決の道を探してくる頼れる味方がいるんです。
今回は、学生の皆さんへのいろいろな支援をご紹介します！



「誰も取り残さない！」
という思いで
熊本大学ONE TEAM
で支援します

学びたい、という意欲ある学生を徹底的に支援するのが大学です。熊本大学では「誰一人取り残さない」という考え方のもと、大学全体がONE TEAMとなって、多岐に渡る支援を開催しています。2021年度も実施するオンライン授業については、2020年度に行なった学生対象のアンケートの結果などを活かし、最大限の準備を行っています。それでも、自分ではどうにもならない状況に置かれることもあります。そんなときは、ぜひ、相談窓口やWebから匿名で投稿できる「意見箱」を活用してください。支援はあなたのもとに必ず届きます。「自分はあてはまらない」「自分のことではない」と判断しないでください。声をあげてもらいたら、全力を上げて支援していきます。いつでも、遠慮なく相談してください！



大学教育統括
管理運営機構
副機構長
齋藤 靖
SAITO Yasushi

文 視野を広げ、違う思想への理解を深めるきっかけを与えてくれた熊本大学留学



匡 路(キョウ・ロ)

Kuang Lu

桂林电子科技大学 カウンセラー(桂林市・中国)

留学期間:2018年10月～2019年3月

留学先:大学院社会文化科学研究科博士前期課程

現代社会人間専攻認知哲学・心理学研究コース

大学院特別研究学生

1992年生まれ。中国湖北省出身。中国広西省の広西師範大学在学中に、熊本大学文学部に交換留学。帰国後、広西師範大学大学院博士前期課程修了。大学生の時、日本語が好きで自分で勉強を始めました。その後、日本文化にも興味を持ちました。

熊大のココがイイ!
特に秋のキャンパスがとてもきれいでいた。また、文化祭では、特別な思い出ができました。

国の未来である子どもたちを導く教師が夢

高校生の時は、先生になり、学生たちにおもしろいことをたくさん教えていました。子どもは国の中でも大切です。社会を良くするために、自分の力を役立てたいと考えていました。

人が優しく、まったく寂しくなかった留学期間

桂林市と熊本市は友好都市で、桂林にある広西師範大学と熊本大学も交流があり、私も交換留学生として留学しました。桂林市内では熊本について見聞きする機会がたくさんあり、くまモンの写真もよく見かけます。私がくまモンファンだったことも、留学した理由の一つ。自然環境も似ており、秋、熊本大学のキャンパスで木犀の香りがしたことをよく覚えています。熊本や九州の人は特に優しく、外国人の私に親切してくれました。留学生活はとても楽しく、半年間、まったく寂しくありませんでした。

日本人の美意識も、深い影響を与えてくれた

留学の半年間、たくさんのことを体験して、勉強になりました。日本人の特別な美意識が自分に深い影響をくれました。熊本での人間関係も深い印象を残し、今の職場で、同僚や学生たちとの関係づくりにも役立っています。留学が自分の視野を広げ、違う思想への理解を深めてくれました。

理 研究を続け、いつか、地域のためにより有益な成果を挙げることが目標



ルスマワン・スワルマン

Rusmawan Suwerman

国立バンドン工科大学 講師
(Bandung Institute of Technology／バンドン市・インドネシア)

留学期間:2010年10月～2013年9月
留学先:大学院自然科学研究科博士後期課程理学専攻
地球環境科学コース

熊大のココがイイ!
すばらしい学びの環境があること。

熊本大学を選んだのは、一柳准教授の存在が理由

熊本大学に留学した理由は、理学部の一柳錦平准教授です。留学前、雨水の安定同位体法を用いて水文気象学を研究する科学者は、インドネシアにはほとんどいませんでした。大学を探しているとき、この研究を最初に行つた一柳准教授を知り、留学を決めました。

家族連れ留学。子どもの世話と研究に勤しむ毎日

家族とともに留学したので、熊本では、毎朝息子を自転車で幼稚園に連れて行きました。その後キャンパスに行き研究を行い、正午に息子を迎えて家まで送り、また大学に戻るという毎日でした。大学の外では、インドネシア人とよく集まり、スポーツやサイクリングを楽しみました。

講師をしながら大気科学研究グループにも所属

現在は、インドネシアのバンドン工科大学で講師をしながら、大気科学研究グループにも所属。教えるという仕事だけでなく、水文気象学に関連する様々な研究も行っています。そのほか、洪水の早期警報システムを構築するという、コミュニティに対する仕事にも従事しています。今の目標は、教授になって独立して研究を行い、私が住んでいる地域コミュニティのためにより有益な成果を挙げることです。

医 研究を経て、日本の医師免許に合格 現在、日本の病院で研修医として奮闘中



田 哲(デン・テツ)

Zhe Tian

和歌山県立医科大学附属病院 研修医

留学期間:2009年4月～2013年3月

留学先:大学院医学教育部

医学専攻博士課程

1984年生まれ。中国山東省出身。中国黒龍江省の牡丹江医科大学の臨床医学を卒業後、熊本大学大学院生命科学研究科博士課程に留学、心臓血管疾患関係について4年間研究し卒業。

熊大のココがイイ!

歴史があるキャンパスや、研究室の穏やかな雰囲気。

限りある命を健康に。人を守る医者を目指す

命には限りがあるのに、さらに病気やケガなどより生活の質が低下してしまうこともあります。私は少しでも人々の健康を守ることができる人間になりたいと考え、医者になる目標を見出しました。

研究で忙しい中、交流会や旅行も楽しんだ熊本生活

熊本大学における医学の研究業績は日本全国で有名です。また自然豊かで落ち着いて研究ができると見え、留学先に選びました。遅くまで論文を読んだりと忙しい日々でしたが、日本人と日本文化をもっと知るために、時々単発のアルバイトも経験。国際交流会館の交流会に参加したり、東京や大阪、九州各地へ旅行することも大好きでした。少し時間ができると、音楽を聴いたり、ランニングしたり、日本人学生に中国語を教えるなど、とても充実した留学生活でした。

博士課程修了後も熊本大学にとどまり、6年間研究

博士課程修了後も研究を発展させるため、熊本大学大学院の分子遺伝教室にて、さらに6年間の研究を続けました。その後、日本で医師になろうと、日本の医師国家試験に合格し医師免許を取得。現在は和歌山県立医科大学附属病院にて研修医としてがんばっています。

薬 2021年からリバネスフィリピンの代表に科学技術を通して母国に貢献したい



デューリヤ・イエブジエニ・アスター

Dulla Yevgeny Aster

株式会社リバネス(東京都)

留学期間:2013年10月～2018年9月

留学先:大学院薬学教育部薬業・生命薬科学専攻博士後期課程

HIGOプログラム:健康生命科学(修士)、薬科学(博士)

1989年生まれ。フィリピン・イロイロ州出身。フィリピン大学卒業後、熊本大学に留学し、修士(生命健康科学)および博士(薬科学)を取得。ミクロゲリアにおける、炎症性と抗炎症性に対するビタミンDの薬理についての研究を実施。これからリバネスフィリピンの代表として、フィリピンの科学技術を加速させたいと考えています。

熊大のココがイイ!

熊本大学は、外国人に優しい大学でした。住みやすい土地柄も良かったです。

子どもの頃から科学者になることが夢

理科専門高校で勉強していた頃は、将来の夢は科学者が医師になることでした。最終的に、幼い頃からの夢だった科学者になることを決めました。

科学に対する自分の思いに合致したHIGOプログラム

日本に来る前、フィリピン大学で教えていた時、熊本大学のHIGOプログラムについて知る機会があり、興味を持ちました。科学者になりたいと思う中で、科学技術は、芸術と人文科学なくしては無意味ではないかといつも考えており、そんな自分の興味や目標に沿っていたのがHIGOプログラムでした。留学しHIGOプログラムで学んだお陰で、熊本と日本はもとより、世界中にたくさんの友だちを作ることができました。

ビジネスコンサルタント会社を経てリバネスへ

卒業後はまず、東京のビジネスコンサルタント会社で働き、主にアメリカとヨーロッパのバイオテクノロジー及び医療機器企業が、日本に進出する際の支援を行っていました。昨年からリバネスの創業開発事業部で働き始め、技術の社会実装に取り組んでいます。今年、リバネスフィリピンの設立に伴い、子会社の代表に就任。母国へ、科学技術を通して貢献したいと考えています。

卒業生ジャーナル

GRADUATES' JOURNAL

留学生特集

本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。
今回は、海外から熊本大学に来て学んだ留学生の今を聞きました。

熊本大学を目指した理由、学生時代の思い出のほか、今のお躍の様子を紹介します。

教 夢を叶え教師になり、新しい目標も。将来は海外の韓国同胞の教育支援をしたい



孫 恩恵(ソン・ウネ)

Son Eun-hye

京畿道安城教育支援庁 奨学士
(安城市・韓国)

留学期間:2013年10月～2015年3月

留学先:大学院教育学研究科(学校教育(教育))

国費外国人留学生(教員研修留学生)

1981年生まれ。韓国釜山出身。釜山教育大学校卒業後、小学校教師として勤務。その後、ソウル大学師範学院倫理教育学科(多文化教育、統一教育専攻)修士及び博士課程修了。

熊大のココがイイ!

美しい風景、静かなキャンパス。そこで会った立派な先生方、暖かい心の学生と、年齢を越えた友情を交わしました。

文部科学省の教員研修生プログラムに合格し留学

大学生の頃に日本の文化などに関心があり、日本で勉強したいと漠然とした願いをもっていました。そして、教師になってから知った日本の文部科学省教員研修生プログラムに挑戦! ありがたくも留学の機会が与えられ、私にとって親しい地域である九州の熊本大学を留学先に選びました。留学中は、日本の小学校の多文化教育環境に関する研究を藤井美穂准教授に手伝ってもらい修士論文を完成し、韓国に戻って大学院を卒業しました。

難しい教育専門職試験に合格。教育庁へ転任

2020まで小学校教諭として勤務。昨年、かなり難しいことで知られる教育専門職試験に合格し、2021年から教育支援庁に勤務しています。教育専門職とは、教育庁で「奨学士」や「教育研究士」と呼ばれ、学校現場をサポートする教育行政(研究)専門職です。5、6年後には、学校の管理職である教頭や校長になる人が多いです。

今の大目標は、海外の韓国教育院への派遣

高校生の頃に抱いていた、教師になりたいという夢は叶いました。しかしそれで満足せず、今は、4、5年後に、海外の韓国教育院に派遣され働くという目標を持っています。海外に住む韓国人の教育を支援し、多様な文化間の交流や相互尊重の文化創造に貢献したいと思っています。

法 日本で法を学んだ経験を活かし 講師をしつつ、研究プロジェクトにも参画



李 倩娜(イ・ユンナ)

Lee Yoon Na

韓南大学校 法政大学 法学部 講師
(大田広域市・韓国)

留学期間:2010年4月～2013年9月

留学先:大学院社会文化科学研究科

人文・社会科学専攻法学領域博士後期課程

1979年生まれ。韓国大田広域市出身。大田広域市の韓南大学校法科大学卒業後、2010年熊本大学大学院社会文化科学研究科博士後期課程に留学。大日方信春先生に師事して憲法を研究。2013年9月、博士後期課程を修了。

熊大のココがイイ!

歴史のある校庭と夏目漱石先生の銅像がとても魅力的で印象的でした。

夜学のボランティア講師をきっかけに、教師を目指す

高校生の頃は、大学に進学して卒業したら、普通の会社に就職するか公務員になりたいと漠然と考えていました。大学に入ってから夜学で先生のボランティアを始め、その時から先生になりたいと思っていたました。

学部でも1年留学。博士学位を取るために再度熊本へ

熊本大学大学院への留学を決めたのは、学部生時代の1年間、熊本大学法学院で交換留学生として勉強した経験があったからです。1年間の交換留学生生活は、私にとって大学院進学という新たな目標を持つきっかけとなり、外国で博士学位を取りたいと思った時に真っ先に思いついたのが熊本大学でした。大学院では研究で色々と忙しかったのですが、剣道部に入部して部活を経験したことは、良い思い出になっています。

留学経験を活かし、現在は研究プロジェクトにも参画

先生になるという目標は忘れず、韓国に帰国後は、母校の韓南大学校で2014年から現在まで法部講師として憲法を教えています。日本で博士学位を取得した経験から、政府出捐(しゅつえん)研究機関(政府が出資する国策等の研究機関)の研究プロジェクトにも研究員として投入され、日本の法令や法制度に関する比較・分析関連研究を行っています。

工 留学生が多い熊本大学で得た世界中に広がるネットワーク



モハマド・フェルダウス・ヌール・オーレディ

Mohamad Ferdaus Noor Aulady

アディ・タマ・スラバヤ工科大学 助教
(Institute Technology Adhi Tama Surabaya /スラバヤ市・インドネシア)

留学期間:2017年10月～2020年9月

留学先:大学院自然科学研究科博士後期課程環境共生工学専攻

1998年生まれ。インドネシア出身。インドネシア国立スラバヤ工科大学土木工学部(ITS: Department of Civil Engineering, Institute Technology Sepuluh Nopember)卒業。ITSおよび台湾国立臺灣科技大学(NTUST: National Taiwan University of Science and Technology /台北)両大学において博士号(Double Degree)取得。

マンガやアニメで日本に憧れた子ども時代

小学生の頃はマンガが好きで、中学生になってからはアニメを見続けていました。そのため、マンガやアニメで見ていた日本が、どれほどすばらしい国なのかを見に行くことが私の夢でした。実際に訪れて、日本の文化や風景に本当に感動しました。

災害管理分野の藤見准教授のもとへ留学

熊本大学には、私の研究分野である災害管理の研究グループがあります。留学する際には、その分野のエキスパートである工学部社会環境工学科の藤見俊准教授に連絡を取り、私の指導教官となって頂きました。

熊本大学は国際化を進めています。数多くの留学生が学んでいます。そのおかげで私は、熊本大学はもちろん、日本国内、そして世界中の国々に、自分のネットワークを広げることができます。

共同研究も目標に、災害管理の研究を継続

留学を終えた後は、アディ・タマ・スラバヤ工科大学の講師となり、その後、助教となりました。今後は、熊本大学での研究分野である災害管理に関する研究を続ける予定です。また、藤見准教授と、私の母国であるインドネシアの災害管理に関する共同研究を行うことが現在の目標です。

SNS

を活用して情報発信中!

ぜひ、フォロー、チャンネル登録 してください！



Twitter

ほぼ毎日、
お役立ち情報を発信中

熊大の学生生活や日々の風景、出来事を中心に、主に受験生向けのお役立ち情報をほぼ毎日つぶやいています。質問も随時受け付けていますので、気軽にフォローしてください！



YouTube

キャンパス案内や
ユニークな学部を
動画でご紹介！



follow me!



Instagram

熊大生おすすめのスポットを
素敵な写真で紹介！

学生広報スタッフおすすめの熊大、熊本のスポットを紹介しています。きれいな風景や美味しいものなど写真を見ると、行ってみたくなりますよ。フォロー、コメントもお待ちしています！



このほかにも、今後オリジナルグッズ制作など、学生ならではの視点で熊大を広報していきます。

私たち

熊本大学

学生

広報スタッフです



2020年度から、本学の教育、研究、学生活動などの魅力を学内外に発信しているのが「熊本大学 学生広報スタッフ」。

現在、8名の学生がSNSの運営や動画制作などをボランティアで行っています。

現役学生の目線で捉えたお役立ち情報を発信していますので、ぜひ、フォローをお願いします！



文学部コミュニケーション情報学科
3年 / 大屋 陸



文学部コミュニケーション情報学科
3年 / 前田 美沙希



法学院法学科
3年 / 浦 祐輔



法学院法学科
3年 / 阿比留 りこ



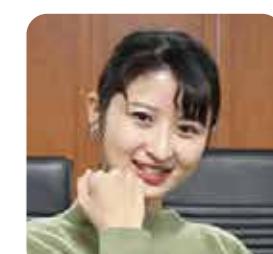
文学部コミュニケーション情報学科
3年 / 黒木 郁奈



文学部コミュニケーション情報学科
3年 / 溝口 夢奈



文学部コミュニケーション情報学科
3年 / 河野 美月



文学部コミュニケーション情報学科
3年 / 清野 花連

学生広報スタッフに聞きました！

Q1 どんな活動をしているんですか？

今は、8人のスタッフがYouTube班、SNS班、商品開発班、ライター班に分かれて活動しています。一人が一つだけの班ではなく、兼任しているので、いろいろな活動が体験できます。現在、主に活動しているのはYouTube班とSNS班、商品開発班です。

YouTube班は、熊大のキャンパスや各学部の様子を動画で撮影。現役大学生の声も伝えています。SNS班は、TwitterとInstagramで熊大キャンパスのお役立ち情報を発信しています。商品開発班では、熊本大学のグッズ企画を行っています。学生だけでなく、地域の方々にも喜んでいただけるグッズを作ろうと企画を練っているところです。

Q2 新入生のみなさんに一言、お願いします！

大学では様々な団体が活動しています。自分が興味をもつたこと、関心があることが見つかったら、積極的に見学してみてください。ほとんどの団体は、SNSも運用しているので、そういう情報も活用してもらえるといいと思います。もし、学生広報スタッフに興味を持ったという方がいたら、一緒に活動しましょう！皆さんの同級生のために、後輩になる人たちのために、いろいろな情報発信をしていきましょう！



学生広報スタッフへの
参加方法はこちらの
ページをチェック！



熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.53（令和2年11月1日～令和3年1月31日）

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約15億2,100万円（令和3年1月31日現在）のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組ませていただきました。また、熊本地震復興事業基金へお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生に対する修学支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、令和2年11月1日から令和3年1月31日までの間に入金を確認させていただきました個人76名、5法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務室（電話：096-342-2029）までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載

（寄附金額別・五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）※（ ）内の数字は、累計寄附金額（万円）です。

<熊本大学基金>

【1,000万円】	田崎 巍 (1000)
【308万円】	熊本大学医学部医学科後援会 (1367)
【100万円】	芳賀 義雄 (905) 有限会社坂本石炭工業所 (100)
【50万円】	山西 嘉晴 (155)
【20万円】	山本 君代 (20)
【10万円】	中園 克久 (51) 株式会社くまもとファーマ (10)
【5万円以下】	伊藤 博之 (5) 遠藤 恭子 (5) 近藤 光弘 (2) 末永 綾香 (15) 曽根田 满 (5) 西 信介 (53) 藤村 重利 (4)

2. お名前のみ掲載

（五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）※〔 〕内の数字は、累計寄附回数（回目）です。

<熊本大学基金>

今里 克之	入江 努	上田 一生 [2]	内村 好美	小野寺 理沙子	織部 安裕 [5]	小池 克明 [5]	興梠 博次 [3]
近藤 悠希	坂井 洋子 [2]	坂元 京子	坂本 泰三	佐川 博文 [3]	定永 路子	澤田 敬 [4]	首藤 刚 [2]
高松 満至	竹尾 透	中尾 明子 [2]	中村 照也	波多野 恒行 [20]	馬場 秀夫 [15]	春山 康久 [5]	久恒 昭哲 [2]
増村 隆之 [4]	南 敬	柳田 敏孝 [14]	矢野 恵美子 [2]	矢野 登久男 [5]	米村 和広 [3]		

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人32名、1法人・団体等

REPORT

株式会社ニューコ・ワンとの共同企画による展示会を開催しました

熊本大学は株式会社ニューコ・ワンと令和2年10月に覚書を締結し、同社が運営するTSUTAYA及び蔦屋書店において、共同企画による展示会を不定期で開催しています。

令和2年度は、教育学部美術科の学生による作品の展示や永青文庫研究センターによる研究成果の展示を行いました。

1月30日(土)から2月5日(金)まで蔦屋書店熊本三年坂において行われた「1620年代 細川家の葡萄酒製造とその背景」展では、研究成果をパネルで展示するとともに、関連書籍や復刻されたワインの販売も行われました。



「1620年代 細川家の葡萄酒製造とその背景」展の様子

REPORT

令和2年度女性研究者奨励賞の表彰式を開催しました

2月16日(火)に、令和2年度女性研究者奨励賞の表彰式を開催しました。

本制度は、各分野において優れた研究成果を挙げた女性研究者及び将来性のある若手女性研究者を表彰することにより、女性研究者のさらなる活躍を支援するとともに、学術分野における男女共同参画推進に資することを目的として平成28年度に創設され、今回で5回目の実施となりました。

熊本県内の女性研究者を対象に昨年10月から12月にかけて公募を行い、厳正なる選考の結果、将来性が期待できる40歳以下の若手研究者を対象とした女性研究者奨励賞には、豊田真子氏（熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター・特定事業研究員）が選出されました。

表彰式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、研究発表会を実施しないなど、例年と比べ簡略化した形での開催とし、豊田氏には、表彰状及び副賞として熊本県の伝統工芸品である肥後象嵌のアクセサリーが贈呈されました。



左から、松本泰道理事、豊田真子氏、原田信志学長、宮瀬美津子副学長

REPORT

令和2年度学生表彰を行いました

3月16日(火)に、令和2年度の学生表彰を行いました。平成14年度から続くこの表彰制度では、学術研究や課外活動において優秀な成績を修めた、または顕著な活動が認められた学生や学生団体を表彰しています。令和2年度は、ボランティア活動と九州大会で活躍した3団体及び個人4名に表彰状を授与しました。

団体

団体名	活動内容
学生災害復旧支援団体「熊助組」	令和2年7月豪雨災害ボランティア活動
松永研究室 教育学部学生7名	くまモンポート八代 トリックアート制作
松永研究室 大学院教育学研究科学生2名	くまモンポート八代 アートウォール制作



個人(ボランティア活動)

所属	氏名	活動内容
法学部法学科 法学コース4年	深海 秀斗	熊本県防犯若武者ペアーズ活動 熊本県少年サポーター活動

個人(課外活動)

サークル名	所属	氏名	大会等名	成績
アーチエリー部	理学部2年	渡邊 優斗	九州国立大学定期戦リモート大会	一般男子の部 優勝
アーチエリー部	文学部1年	菅原 佳祐	第55回九州学生アーチエリー新人選手権大会	初心者の部 男子優勝
少林寺拳法部	法学部1年	甲斐 大翔	第51回少林寺拳法全九州学生大会	男子白緑帯単独演武の部 最優秀

REPORT

第15回先端科学技術分野学生国際会議(The 15th ICAST 2020 Online)を開催しました

大学院自然科学教育部は、12月3日(木)、4日(金)に、「第15回先端科学技術分野学生国際会議」(ICAST: International Student Conference on Advanced Science and Technology)を開催しました。

ICASTは学生により運営される国際会議で、英語による研究発表や討論により学生の実践力及び英語運用能力を強化し、海外からの学生との交流により国際感覚を養うことを目的としています。平成20年より海外交流協定校での開催も含め毎年開催され、今回は15回目となり、新型コロナウイルス感染症への対策として、初めてのオンライン開催となりました。

今回は、熊本大学からの参加登録者115名に加え、熊本県内の高校から45名、海外交流協定校(中国、韓国、インドネシア、フィリピン、トルコ、フランス)37名、国内大学から17名が参加登録し、口頭発表151件を英語で行い、のべ812人の参加がありました。また、ICAST学生運営委員会により会議の準備運営が行われ、オープニングセッションを含む各セッションの司会進行等も学生により執り行われるなど、有意義な国際会議となりました。



運営委員の学生たちによる準備風景



大谷順 副学長による挨拶の様子



連川貞弘 大学院自然科学教育部長による挨拶の様子